

第6回まちづくり町民会議次第

日時：平成20年9月11日（木） 午後7時～

場所：高田庁舎 北第3会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) ワークショップの内容整理と住民参加条例の概要

(2) 座長・副座長の選出及び運営会議委員について

座長 石川栄子

副座長 荒井弘之

運営委員 塩田光顕, 佐藤国男, 渡辺秀造, 神村好男, 福田祐子

4 その他

(1) 次回まちづくり町民会議 平成20年9月25日（木）午後7時～

~~テーマ：役場の役割と住民の参加~~

先進事例研究（勉強会）

(2) 地域ワークショップの開催について

高田地域 10月14日（火）午後2時～ 高田公民館 第2研修室

本郷地域 10月16日（木）午後2時～ 本郷公民館 研修室

新鶴地域 10月17日（金）午後2時～ 新鶴公民館 B会議室

5 閉 会

第6回まちづくり町民会議

～(仮称)情報共有と住民参加のまちづくり推進条例の制定に向けた取組み～

総合政策課

検討経過の整理

- 7/30 第3回まちづくり町民会議
 - テーマ:「役場(職員)に対して思うこと」
- 8/6 第4回まちづくり町民会議
 - テーマ:「まちの現状に対して思うこと」
- 8/28 第5回まちづくり町民会議
 - テーマ:「どんなまちにしたいか」
- 目標:まちの現状・課題と理想像を明確にする

役場(職員)に対して思うこと(1)

- ①情報公開の推進不足
 - 情報開示が足りない, 行政情報が流れない等
- ②役場の構造改革が必要
 - 監査体制の充実, 人材の有効活用 等
- ③地域課題の政策への反映が不明確
 - まちづくりの方向性が分からない, まちの特徴が見えてこない 等

役場(職員)に対して思うこと(2)

- ④職員の意識改革と資質向上が必要
 - 職員は地域活動に参加すべき, 公僕たれ, サービス業としての自覚に欠ける, エキスパートへの努力 等

まちの現状に対して思うこと(1)

- いいところ
 - ①「人」・・・人情味, 地域での相互扶助 等
 - ②「もの」・・・米が旨い
 - ③「自然」・・・四季, 水田, 空気 等
 - ④「文化」・・・伝統行事, 文化財
 - ⑤「治安」・・・犯罪, 事故, 災害が少ない

まちの現状に対して思うこと(2)

- ①自然環境の保全が必要
 - 環境保全に対する配慮が不足, 耕作放棄地が目立つ 等
- ②町民の意識改革が必要
 - 町の補助金に頼りすぎ, 人材が限定されている, 地域のリーダーがいない 等
- ③まちに活気がない
 - 商店が少なくなった, 仕事の場がない, 若者が少ない 等

まちの現状に対して思うこと(3)

- ④まちづくりのビジョンが明確化されていない
 - まちをどのようにしていくのかわからない, 協働のまちづくりの意味が分からない 等
- ⑤インフラの整備が必要
 - 人が集える場所がない, 交通の便が悪い 等
- ⑥役場の構造改革
 - トップの指導力, 人材育成 等

どんなまちにしたいか(1)

- ①自然環境を大切にするまち
 - 緑を守るまち, 町並みを保存するまち 等
- ②町民が主役のまち
 - 町民がまちの一員として自覚を持つ, 議会と町民の視点が一致 等
- ③活力にあふれるまち
 - 高収入がある企業のまち, 観光農林のまち, 商店街に活気のあるまち 等

どんなまちにしたいか(2)

- ④安全・安心なまち
 - 犯罪のないまち, 子ども達が安全に暮らせるまち等
- ⑤健康なまち
 - 「健康まちづくり宣言(条例)」をするまち, 医療にまち等
- ⑥高齢者に優しいまち
 - 健康長寿のまち, 高齢者が歩けるまち等

どんなまちにしたいか(3)

- ⑦子育て支援が充実したまち
 - 老人と子どもが笑っているまち等
- ⑧文化のまち
 - 伝統行事・文化財を大切にするまち, 芸術に親しむまち等
- ⑨自立したまち
 - 自主財源を確保できるまち等

現状・課題と理想の比較

現状・課題のキーワード

- ①自然環境の保全
- ②町民の意識改革
- ③まちに活気がない
- ④まちづくりビジョンの明確化
- ⑤インフラの整備
- ⑥役場の構造改革

情報公開の推進・地域課題の政策への反映・職員の意識改革と資質向上

理想像のキーワード

- ①自然環境
- ②町民が主役
- ③活力にあふれる
- ④安全・安心
- ⑤健康
- ⑥高齢者に優しい
- ⑦子育て支援が充実
- ⑧文化
- ⑨自立

情報共有と住民参加のまちづくり 推進条例(仮称)について

歴史的背景と環境変化

- これまで
 - 国の統一的な政策に基づいたまちづくり
 - 右肩上がりの経済では住民ニーズを満足
- 平成12年4月1日「地方分権一括法」
 - 住民にとって身近なまちづくりは、できる限り地方が行い、地方の自主性・自立性を確保する
 - 「機関委任事務の廃止」「法定主義の原則」等

地方自治の本旨(憲法)

- 「団体自治」と「住民自治」
 - 国, 県, 市町村とも, 上下の関係ではなく, それぞれ独立した政府であり, 互いに干渉を受けることなく, 地域のことを自分たちで決めることができる
 - 地方自治体では, 住民中心の自治を行わなければならない
- これから
 - 右肩上がりの経済は終焉を迎え, 「あれも・これも」から「あれか・これか」の選択へ

住民自治の実現に向けて

- 住民起点の行政運営へ（役場と町民の信頼関係の構築から）
 - 住民が主体的に参加し、住民の意向を踏まえた行政運営へ
 - 行政の透明性を高め、行政活動への住民参加の仕組みが必要
- 住民参加
 - 行政活動への参加
 - 住民の自主的な活動への参加

これから制定する条例(1)

- 基本構成
 - ①誰が参加できるのか？
 - ②どのような行政活動に参加できるのか？
 - ③いつ参加できるのか？
 - ④どのように参加できるのか？
- これらの内容を条例として制度化することを目的とする

これから制定する条例(2)

- ①誰が？
 - 町民(町内に住む人, 働く人, 学ぶ人 等)
 - 特定しない方法もある
- ②どんなことに？
 - 町の仕事(行政活動)
 - 例(主なもの)
 - 計画の策定と変更
 - 条例・規則の制定と改正
 - 施設の建設
 - その他町民の生活に大きな影響を与えるもの

これから制定する条例(3)

- ③いつ？
 - 「企画～決定」までの間
 - 町民の意見が反映できる適切な時期
- ④どのような方法で？
 - 例(主なもの)
 - パブリックコメント手続
 - 審議会等
 - 住民説明会等
 - ワークショップ
 - 住民投票

これから制定する条例(4)

- その他条例に記載する主な事項
 - 行政運営のビジョン(前文・目的・基本原則)
 - 管理体制
 - 参加制度の実施状況を管理する審議会等の設置
 - 状況報告(町民への公表)
 - 制度の改善・見直し 等
- 行政活動の効率性の確保
 - 地方自治法第2条第14項
 - 地方公共団体は、その事務を処理するに当たっては、住民の福祉の増進に努めるとともに、最小の経費で最大の効果を挙げるようにしなければならない

ワークショップ検討結果 「役場(職員)に対して思うこと」

見出し
・項目
情報公開の推進
・情報開示が足りない
・情報の共有化(苦情・要望等の横断的共有化)
・分からない財政報告
・役場のメンテナンスコストの公開
・職員研修カリキュラムの公表
・窓口での個人情報の管理が甘い
・口コミによる行政の情報の流れがない
・地域のネットワーク構築がされていない
・町政懇談会が役場の一方的な説明になっている
・役場の説明会にくる人が少ない
・広報紙が老人向きでない
役場の構造改革
・監査体制の強化
・人材の有効活用(人員の重点化)
・若手職員の重点活用
・窓口の人が多すぎる
・人事異動に本人の希望を取り入れてほしい
・役場の給料が地場産業の人よりも高く感じる
・役場や病院も24時間体制で
地域課題の政策への反映
・まちづくりの方向性が分からない
・まちの特徴が見えてこない
・町民の声を政策に反映してほしい
・費用対効果が見えない
・合併により分散化された
・外部からの受入体制が出来ていない
・受益者負担が増えている
・30代から50代が参加できるイベントがない
・地区の問題の早期解決を
・各地区の活性化に努めてほしい
・空き地の美化
・町民の声を広報などで伝えてほしい
・環境保全を積極的に考えてほしい
・山や川、野生動物を大事に考えてほしい
・第1次産業(農業、林業など)を大切に考えてほしい

ワークショップ検討結果 「役場(職員)に対して思うこと」

見出し	
・項目	
職員の意識改革及び資質向上	
・	町民と信頼関係を
・	職員の行事への参加が少ない
・	町主催の講演会や勉強会に率先して職員が参加すべき
・	職員はもっと地域活動に参加すべき
・	職員のボランティア活動への参加が少ない
・	各種行事への積極的参加
・	民間人を含めた職員研修委員会をつくり、研修計画の立案や評価を実施
・	昇任試験制度の採用
・	情報が伝わらない
・	職員のサンダル履きを見ると緊張感を感じない
・	予算編成の際に、町全域の実況検分を行い、優先度を付けて事業を行う職員の努力が必要
・	専門性を持ってほしい(勉強してほしい)
・	ポリシーを持って仕事をしてほしい
・	前例を全て否定して仕事にあたる
・	保守的
・	決められたことだけでなく、新しいことや改善を進めてほしい
・	職員は24時間公僕たれ
・	公僕の意味把握
・	財政が年々厳しくなる現状を踏まえ、職員も勉強してほしい
・	地域の特色を学んでほしい
・	エキスパートへの努力
・	足で情報を集めてほしい
・	急速に進む高齢化に対し関心度を高めてほしい
・	朝のかけ込み出勤が見られる
・	始業時間は仕事開始
・	接客が下手
・	笑顔が少ない
・	サービス業としての自覚がない
・	元気がない
・	たらい回しにされる
・	横の連携がない
・	不親切
・	分庁舎で不便
・	夜間の対応が悪い
その他	
・	町長は全ての模範たれ
・	自転車の有効活用(地域の課題を直接目で確認する)
・	職員に対して刑罰が軽い

ワークショップ検討結果 「まちの現状に対して思うこと」

見出し	
・項目	
いいところ	
人	<ul style="list-style-type: none"> ・人情味あふれる人が結構いる ・おおらかな気持ちの人が多く ・集落内での相互扶助 ・お節介 ・青年層に見られる礼儀正しさ ・子ども達への挨拶指導がよい
食べ物	<ul style="list-style-type: none"> ・米がうまい ・米が旨い
自然	<ul style="list-style-type: none"> ・自然が美しい(四季がはっきりしている) ・水田に映る空、雲がすばらしい ・災害が少ない ・静かである ・空気がよい ・自然が多い ・河川の整備が進んでいる
文化	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事、文化財が多い ・文化財が多い(国宝、国重文)
治安	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪、事故、災害等が少ない ・犯罪が少ない(安全、安心) ・治安がよい ・治安がよい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり町民会議を企画したこと ・公民館、福祉センターの解放による健康、趣味の増進

ワークショップ検討結果 「まちの現状に対して思うこと」

見出し
・項目
自然環境の保全
・町の環境保全に対する配慮が不足
・山が荒れている(里山の荒廃)
・耕作放棄地が増えている
・山野は永遠の財産として意識を共有したい
・自然が豊か〜その価値に気づいていない
・手入れされていない民有林が多い
・耕作放棄地が目立つ
町民の意識改革
・町民は町の補助金に頼りすぎる
・町に賢い人材はいるが行動してくれないと価値はない
・おもてなしの心を(イベント等の受入体制)
・住民の意識がどこにあるのか分からない
・他から来るとなかなかなじめない雰囲気がある
・住民の自主活動が今ひとつ盛り上がらない
・公民館活動で中高年の人が多いが、趣味の活動が多い(建設的発想が少ない)
・元気な老人が多いにもかかわらず福祉活動に結びついていない
・町民の本音と公の場での発言の落差
・自分(家庭)のことには一生懸命
・身銭を切ってまでの改革は望まず
・町外勤務者には生活圏にあらず
・くすぶってはいても表に出さない
・人材が限定されている
・地域のリーダーがいない
・町民会議に参加しない方は賛成? 反対?
・町中のイベントに一般ボランティアを募集
・後継者対策(元気がない)
・閉鎖的

ワークショップ検討結果 「まちの現状に対して思うこと」

見出し
・項目
町に活気がない
・「我が町は・・・だ！」というものがない
・活気がない
・街がゴースタウン化している(商店が閉まっている)
・よくよく考えないとまちの良いところがわからない
・全体的にあきらめが感じられる
・活気がない
・美里町全体に活気がほしい
・人通りがない(街灯が少ない)
・高田地区のみなさんは様々な面で保守的に思う
・商工会等の顔が見えてこない
・高田地区の商店街は全然元気がない
・高田地区の商店街に活気がない
・商店が少なくなった
・近隣の他の町と比較して沈んでいる
・夢のある方向付けが必要
・企業誘致に期待する
・仕事の間がない
・雇用が少ないため若者が町外に流出
・就職場所が少ない
・オール会津でのイベント開催(地域のPR)
・町、商工会のイベントの内容に工夫が必要
・高齢化が進み、農地も荒れてくるので早急な対策が必要
・観光客誘致を進める場合、経済効果を考えるべき
・伊佐須美神社は閉鎖的
・蓋沼をもっと活用すべき
・会津美里町のブランド産品がない
・人材ブランド(楽しみが分からない)
・町内の他の地域との連携が少ない
・他地域との連携が少ない
・車が増えた(バス、電車の利用が少ない)
・老人の一人暮らしが増えた
・結婚できない人が増えた
・若者が少ない
・老人の心の安心(老人介護施設の増設)
・外で遊ぶ子どもが減った
・子どもが少なくなった
・専業農家が減った

ワークショップ検討結果 「まちの現状に対して思うこと」

見出し

・項目

まちづくりのビジョンの明確化

- ・町をどのようにしたいのか見えない(地域住民も含めて)
- ・まちをどのようにしていくのか分からない
- ・門前町構想について、財政負担と将来ビジョンが分からない
- ・大規模林道が途中で閉鎖されているが、何のためにつつあったのか
- ・昔から変わらない
- ・住みよいまちづくりへのビジョン
- ・子どもが楽しく元気に住めるには・・・の方策が不足
- ・協働のまちづくりの意味が分からない
- ・合併して2年経過したが、旧3町村の一体感がない
- ・まち全体としての統一した取組が不足
- ・「歴史と文化のまち」とは何を持って言うのかが分からない
- ・明るい未来展望が描けない

インフラの整備

- ・通勤に時間がかかる
- ・交通の便が悪い
- ・新鶴地域高齢者福祉センターの有効利用
- ・気軽に集える場所がない
- ・インフラ整備が遅れている
- ・町の拠点がない
- ・文化の拠点が無い

役場の構造改革

- ・トップの指導力
- ・言葉、態度の悪い職員がいる
- ・公務員や役場OBはもっとボランティアに参加すべき
- ・よく分からないままに多額のお金が使われている(門前町、林道等)
- ・スピーカーを利用したPRの推進
- ・3箇所の庁舎の分散が使いにくい
- ・あやめ温泉の料金統一化は誤り(健康ランドと銭湯は異なる)
- ・あやめ温泉の利用者が減っている。対策を
- ・メタボからの脱出(まずは借金の返済を最優先に)
- ・自治会組織の活性化、協力体制の強化
- ・町の広報紙をみんなが喜んでみてもらう工夫を
- ・空地や空家の活用
- ・オンブズパーソンの導入
- ・企業の協力体制がない
- ・子育て施策が合併後後退している
- ・単的活動のネットワーク構築
- ・専門分野、パイオニアの人材育成
- ・町税額を増やすため、より具体的に計画を立てて所得向上を図らなければならない
- ・職員の適正人員について基準が分からない(住民の目線から見る)

ワークショップ検討結果 「まちの現状に対して思うこと」

見出し
・項目
その他
・議員報酬が高すぎる
・議会議員も歳費削減すべき

ワークショップ検討結果「どんなまちにしたいか」

見出し

・項目

自然環境を大切にすまち

- ・美しいまち
- ・緑と水が豊かなまち
- ・こぎれいなまち(道路, 公園, 町並みにすがすがしいまちづくり)
- ・里山のある空間づくり
- ・魚が住み, 野鳥が飛び交う河川
- ・黄金色に輝く田園
- ・緑を守るまち
- ・四季が感じられるまち
- ・名水のまち
- ・耕作放棄地のないまち
- ・美しい里山のまち(里山再生)
- ・自然を大切にすまち
- ・会津の風景が一番美しく見える場所に高台をつくる
- ・歴史, 文化のまち
- ・町並みを保存すまち
- ・桃源郷のまち(山に植林)
- ・景観(美観)が人を呼べるまち
- ・大型野生動物のまち
- ・野生動植物を大切にすまち
- ・動物, 植物園のあるまち
- ・植物園のまち
- ・自然公園のまち
- ・ペット愛護のまち
- ・温泉のまち
- ・墓地公園のまち
- ・風力発電のまち
- ・ソーラー発電のまち
- ・温暖化防止推進のまち
- ・ソーラーシステムで電力の70%カバーできるまち

町民が主役のまち

- ・町民が主役のまち
- ・ビジョンの見えるまち
- ・創造性豊かな企画で仲間づくりができるまち
- ・町民が町行事に自主的に参加できるまち
- ・人材発掘(若年, 女性)
- ・公僕として町民を支える姿勢
- ・就労の場がある(企業誘致)

ワークショップ検討結果「どんなまちにしたいか」

見出し

・項目

- ・若者が定住できるまち
- ・議会と町民の視点が一致
- ・貧しくとも教養のあるまち(良識, 常識のない大人が意外と多い)
- ・町の一員としての自覚を持つ
- ・リタイヤ者の町への貢献(次世代)
- ・ボランティアの拡大
- ・活動ネットワーク網の整備
- ・町内では皆がご近所さん
- ・一人ひとりの意見を尊重できるまち
- ・コミュニケーションのよいまち
- ・人が集うまち
- ・おもてなしの心のまち

活力にあふれるまち

- ・高収入がある企業のまち
- ・長男, 次男の働く職場のあるまち
- ・自転車に通える職場のまち
- ・男子の職場の多いまち
- ・各所に後継者のいるまち
- ・若者の多いまち
- ・大型特産品販売所開設
- ・農業で収入が得られるまちづくり(ブランド品創)
- ・農業で生計が立てられるまち
- ・観光農林のまち
- ・観光農業のまち(果樹, 野菜, 郷土料理)
- ・農業を大事にするまち(農業をする若者を増やす)
- ・元気のある商店街のまち
- ・商店街に活気があるまち
- ・自然観光のまち
- ・まちのブランド品のあるまち
- ・ショッピングモールがある
- ・場外馬券売り場のあるまち
- ・イベントが出来る文化施設があるまち
- ・文化や活動の拠点施設がある
- ・若者が楽しめるテーマパークがある
- ・ファミレスがある
- ・光ファイバーの利活用(高齢者, 一人暮らし対策)
- ・町自慢の特産品のあるまち(開発チームによるまちおこし)

ワークショップ検討結果「どんなまちにしたいか」

見出し	
	・項目
安全・安心なまち	
	・子どもが外で遊べるまち
	・犯罪のないまち
	・子ども達が安全に暮らせるまち
	・設備の老朽化対策で安全安心なまち
	・生活道路はすべて簡易舗装のまちとする
	・新道路は造らず橋, 道路の保全に力を入れるまち
健康なまち	
	・幼児, 小学生, 中学生まで医療費無料
	・医療のまち
	・未婚男女の出会いのまち
	・町が「健康まちづくり宣言」をする(条例)
	・健康づくりの具体的施策に全町民参加を目指す
	・医療費や介護費用の軽減を図る
	・活気のある町
	・歩いて楽しい商店街
高齢者に優しいまち	
	・老人宅声かけ助け合い(自治会, 行政, ボランティア)
	・老人が無理なく入院出来るまち(あいあいタクシー, ボランティア)
	・老人が自由に運動, 談笑出来るまち(公民館, 福祉センターの昼間解放)
	・健康長寿のまちづくり
	・交通弱者への交通網の整備
	・高齢者のお茶飲み場がある
	・特別養護老人ホームの空部屋があるまち(庁舎の改築)
	・高齢者の居場所づくり支援
	・医師が常駐している病院
	・年寄りにやさしいまち
	・元気な老人活用のまち
	・高齢者が気軽に出来る運動用具の貸出しと場所の確保
	・一人暮らしの老人が安心して暮らせるまち
	・一人暮らしの人も安心して生活できる環境づくり
	・年寄りを大切にすまち
	・高齢者が歩けるまち

ワークショップ検討結果「どんなまちにしたいか」

見出し	
	・項目
子育て支援が充実したまち	
	・老人と子どもが笑っているまち
	・子どもの教育と図書ハード、ソフトの充実したまち
	・子どもの声が聞こえる
	・子どもの笑い声が聞こえるまち
	・子育て支援の充実
文化のまち	
	・芸術に親しむまち
	・伝統行事、文化財を大切にすまち
	・仏教哲学のまち
	・町の歴史館のあるまち
自立したまち	
	・固定資産税、住民税の安いまち
	・町内域に道路案内板と観光案内板を設置する
	・点から面へ展開できるまち
	・町内外に街頭宣伝の出来る放送設備のまち
	・自主財源を確保できるまち
	・一つの役場庁舎のまち
	・地域社会建設に積極的なまち
	・緊急食料援助のまち
	・これが本当の田舎まち
	・町民の個人所得を押し上げる施策(農業, 商業, 工業, 各種ごとに見直す)
	・議会議員は年に一度は会報を新聞折り込みで出すこと